

新型コロナウイルス感染症が日本で本格的に流行してから丸1年が経過しました。2年連続して花見も満足にできない状態です。1年前との大きな違いは、有効なワクチンができたことです。いかに迅速かつ安全にワクチン接種を行っていくかが、大きな課題となっています。ファイザーやモデルナ社製のワクチンは、保存方法や輸送管理が難しく一般の医療機関では扱いにくいものとなっています。アストラゼネカ製のワクチンはインフルエンザワクチンのような保存管理方法でよいようなので、当院でも扱えそうです。しかしながら、副反応として血栓症を起こす可能性が指摘されています。事態の推移を注視しています。3密を避けることが大きな予防効果をもたらすことは過去3度の流行の波から身をもって理解できましたが、それだけでは、社会生活が成り立ちません。早く、有効な治療薬が開発されることを期待しています。困難な状況下で多くの人たちが、精神的なストレスを抱えています。上手にストレスを解消する工夫をしましょう。



【最近目立つ病気】

ウイルス性胃腸炎による嘔吐や下痢が保育園・幼稚園や小学校で時々流行しています。接触、経口感染ですので、濃厚な接触のある乳幼児で流行が起きます。それが家庭内で拡がり流行が繰り返されるようです。アデノウイルス感染症や溶連菌感染症も時々見られています。また季節柄、花粉症の人も目立ちます。去年はスギ花粉の飛散量が少なく症状の軽い人が多かったようですが、今年は目のかゆみを訴える人が多いようです。晴れた日に症状が悪化する方は花粉症かもしれません。

ところで、インフルエンザの流行は全くみられませんでした。医師になって40年、このような年をはじめて経験しました。インフルエンザの検査も数回しかすることはなく、全て陰性でした。接触・飛沫感染の代表的な感染症であるインフルエンザは3密を避ける生活様式で防ぐことができると分かりました。

【ウイルス性胃腸炎】

1 感染性胃腸炎とは

感染性胃腸炎とは、細菌やウイルスなどの病原体による消化器感染症です。ウイルス感染による胃腸炎が多く、毎年秋から春先にかけて流行します。

2 原因と感染経路

原因となる病原体には、ノロウイルス、ロタウイルスなどのウイルスのほか、細菌や寄生虫もあります。

感染経路は、病原体が付着した手で口に触れることによる感染（接触感染）、汚染された食品を食べることによる感染（経口感染）があります。

3 症状

病原体により異なりますが、潜伏期間は1～3日程度です。ノロウイルスによる胃腸炎では、主な症状は吐き気、嘔吐、下痢、発熱、腹痛であり、小児では嘔吐、成人では下痢が多いです。有病期間は平均2～3日です。ロタウイルスによる胃腸炎では、嘔吐、下痢、発熱がみられ、乳児ではけいれんを起こすこともあります。有病期間は平均5～6日です。

4 治療

特別な治療法は無く、対症療法が行われます。乳幼児や高齢者では下痢等による脱水症状を生じることがありますので早めに医療機関を受診すること

が大切です。特に高齢者は、誤嚥（吐物が気管に入る）により肺炎を起こすことがあるため、注意しましょう。嘔吐がおさまったら少しずつ水分を補給し、安静に努め、回復期には消化しやすい食事をとるよう心がけましょう。

5 予防のポイント

ロタウイルスによる感染症については、予防接種があります。令和2年10月から定期接種になりました。ノロウイルスについては、予防接種はありません。トイレの後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。便や嘔吐物を処理する時は、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。カキなどの二枚貝を調理するときは、中心部まで十分に加熱しましょう。

【参考:簡易なハイター等の薄め方】(市販の漂白剤:塩素濃度約5%の場合) 0.02%・・・環境消毒*に使用 0.1%・・・嘔吐物・糞便が付着した場合の処理に使用

*家庭や施設において、トイレのドアノブや手すりなど、多くの人が触れる場所の消毒に使用

(注)次亜塩素酸ナトリウムは金属を腐食させるため、金属部分に使用した場合は10分程度たったら水拭きしてください。また、塩素ガスが発生することがあるので、使用時は十分に換気をしてください。

濃度(希釈倍率) 0.02% (200ppm): 2リットルのペットボトル1本の水に10ml(原液をペットボトルのキャップ2杯)、0.1% (1000ppm): 500mlのペットボトル1本の水に10ml(原液をペットボトルのキャップ2杯)

6 検査・感染症法との関係

検査診断は、迅速診断キットを用いた抗原検査や、病原体の検出によります。(東京都感染情報センターホームページより)

【新型コロナウイルスワクチン】

以下は厚生労働省のホームページから健康観察日誌集計の中間報告(令和3年3月26日)のまとめです。

- ・2月14日に特例承認となった新型コロナウイルス「コミナティ筋注」(ファイザー社製)を2月17日から先行接種対象者に接種開始した。
- ・2月25日に被接種者登録が終了し、

19,808例が1回目接種し、コホート調査に登録された。2回目接種は17,579例が接種した。

- ・接種後8日目以降に回収した1回目接種19,035例(全体の96.1%)

および2回目接種3,933例の健康観察日誌から、1回目接種後の発熱(37.5℃以上)は3.3%であったが、2回目は35.6%と高率であった。発熱する場合は翌日が多く、接種3日目には解熱した。接種部位の疼痛は90%を超える被接種者が自覚し、接種翌日が最も頻度が高かった。接種3日後には軽快した。1回目に比べ、2回目接種では接種翌日に頭痛(4割)、全身倦怠感(6割)を自覚した。

- ・2009年のH1N1pdmインフルエンザワクチン2万人調査と比較すると、コミナティ筋注は接種部位の疼痛の頻度が明らかに高く、2回目接種後の37.5℃以上の発熱(3割)、頭痛(4割)、全身倦怠感(6割)を認めた。

- ・2回目接種後も接種30分以内の副反応疑いを認めた。1回目、2回目接種合わせて、顔面神経麻痺を含む末梢神経障害など20例が報告された。



☆西念の駅西福祉健康センター内の金沢広域急病センター(Tel.:222-0099)では午後7時30分から11時まで、小児科と内科の診療を年中無休で行っています。加畑の担当は4/1、5/23、8/1の予定です。なお、5/9は当番医です。

☆金沢市では乳幼児の任意接種のワクチンについての助成金制度を行っています。詳細は受付でお尋ね下さい。

☆当院のHp(<https://kabata-cl.jp>)から順番待ちシステムにアクセスできます。ネット予約もできますので是非ご利用ください。

☆世界の宝「憲法9条」を次の世代に贈りましょう。

